

# 令和 1 年度 事業報告

1	相談支援事業所はしわたし	……	1 - 1	～	1 - 2
2	地域活動支援センタージャンプ	……	2 - 1	～	2 - 2
3	すまいるB	……	3 - 1	～	3 - 6
4	てつなぎ工房	……	4 - 1	～	4 - 8
5	グループホーム	……	5 - 1	～	5 - 2
6	ぬくもり弁当	……	6 - 1	～	6 - 3
7	本部 ～ 総括	……	7 - 1	～	7 - 2

社会福祉法人てつなぎ

## 相談支援事業所「はしわたし」令和1年度事業報告

### はじめに

計画相談については、令和2年3月現在53名の利用者が登録をしている。また、児童の利用者は、21名計画相談しており、合計74名の計画相談対象者となる。

近年の傾向としては発達障害があり二次障害としてのうつ病など精神障害の増加がある。川湯の森病院からの紹介で一般相談の対象となる方も多く、障害福祉サービスの受給者証作成、精神保健福祉手帳の作成、自立支援医療費受給者証の作成、障害年金の申請サポートなどを行っている。精神障害、大人のひきこもり、児童に於いては発達障害の増加が著しい。一般相談から地域活動支援センター、その後福祉的就労へと移行できる様サポートしている。現在第一相談員として吹田相談支援専門員、第2相談支援専門員として吹田美佳1名の相談支援専門員を配置し業務を行っている。

### 主な活動

#### ①一般相談

- \* 弟子屈町からの委託事業で保健師や事業所等関係者と連携を図り利用者の相談支援に努めた。
- \* 利用者・家族等からの相談に応じた。

#### ②計画相談

- \* サービス利用計画の作成・モニタリングを実施した。
- \* サービス担当者会議を開いて関係者の意見を聞いたり調整を行った。
- \* 関係機関等への連絡調整を図った。

#### ③自立支援協議会の事務

- \* 保健師と相談支援事業所を構成メンバーとする相談支援部会で活動した。

#### ④地域資源の改善・開発

- \* 介護サービスとの連携を図った。
- \* 福祉サービスにつながるまでの間、地活を利用するなど社会資源を活用した。

### 平成31年度特定計画相談支援モニタリング履歴

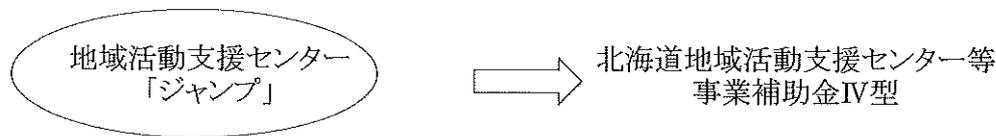
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
計画作成	2	7	11	2	0	2	2	0	3	3	0	22	54
継続	21	20	33	17	23	39	17	20	35	15	20	21	281
計	23	27	44	19	23	41	19	20	38	18	20	43	335

(所感として)

平成31年度は、以前から要保護児童対策協議会で検討していた児童が、父親に暴力を受け児童相談所に保護され、父親は拘束され検察に送致、罰金刑となる。釈放後に両親は離婚し、はしわたしは離婚の話し合い、公証人の紹介、生活保護申請の面談同席、父親の足りない家財道具の補填、離婚届のやり取りの仲介等側面的に支援してきた。児童が弟子屈に戻ってから発達支援センターや学校と情報共有し、母親や学校でのトラブルを回避するための方法を関係機関で検討している。

また、ひきこもりの子供(30歳女性)が家から出される時に暴力を受けたと騒ぎ、その後親を訴えるという事で、調停や裁判の新しい意見書などを法人弁護士と相談し作成、くらしごとや札幌の生活困窮事業者と連携し札幌での部屋探し等協力していただき、からの手紙の作成等、ようやく裁判を取り下げ札幌に送り出す結着になった。町内での困難事例で一つ一つもつれたものをほがら、ご家族やご本人が納得できる着地点を目指して側面で支援を行っている。

## ○地域活動支援センター事業報告



弟子屈町及び保健師・社会福祉協議会・川湯の森病院・民生委員・近隣住民・家族等より、一般相談を経て地域活動支援センター(以下地活)に繋げて頂き、面談を行いました。

地活の取り組み・在り方として、利用者様の一番好きな事・やりたい事をお聞きしたり、現存の作業の様子からいくつかの作業の提案をし、利用者様と一緒に考え内容を決めて進めました。

その中で、ご本人の『一番の得意』を見極め、目で見える結果を出していき、『好きな事』を『自信』に変えて頂けるようにお手伝い致しました。

また、その基本に更に応用を加え様々な作品を商品化し道の駅等で販売。自分の作ったものに対して、お客様がお金を払って頂けるという喜びを感じ、『やりがい』を感じて下さるように応援しています。

自信を持って取り組まれていると実感された時に、ご本人の意向をお聞きしてB型事業所への見学を経て、次のステップとして、ご自分に合った事業所での就労に結び付けていく事も選択の一つとしています。

不登校児童・障がいによる引きこもり・高齢者などに対し、ただ自宅から出て通所し時間を過ごすだけという時間の使い方ではなく、好きな事は何か、出来ることは何か、自信に繋げるためにはどう取り組むかを考え、実践しています。更に、不登校児は通所日数は少ないですが、『今日は通所しよう』と思いきりの気持ちを大切に、「通所すると楽しいことがある」「頑張って挑戦してみる」という時間にももらえる環境作りをして、自分が今思う事、聞いてほしいこと、今後の進路についても話してくれるようになってきています。

31年度(令和1)も創作活動に力を入れ、技術を向上させ道の駅や町内外での販売もすることが出来ました。活動を通じて意欲が高まり、自分に自信が持てることで、生活リズムが安定するといった効果を感じられます。高齢者も期待に応えようと集中して作業している様子が伺え、仕事に対する張り合いさえ感じられます。又、それぞれの得意を合体させたコラボ作品も数々出来上がり、お互いに意見を出し合ったり、協力する姿が多く見られました。

一般社団法人パイングレースよりお話があり、器具及びアカエゾマツとその粉碎までも協力頂き、新しく10月から取り組んでいます。利用者さんが5時間の一連の流れを習得して丁寧で正確な作業を続けています。

全体の作業を通して、本日の作業順を自分で決めて行える動きも多く見受けられるようになり

皆さん何らかの形で、社会参加しているという実感を持って作業をしています。

どなたに対しても地活に通所する事が有意義で、楽しい時間と感じて頂き、社会参加している実感を持つ、そのお手伝いをさせて頂きました。

○ジャンプ登録者(平成31年度(令和元年))

精神	3名
知的	1名
障害児	0名
不登校児	1名
その他	3名
計	8名

※3月より体験通所者3名  
 ( 4月より身体1・精神1・不登校児1名)  
 通所予定

\*作業内容→ 野菜栽培・除草作業・花壇整備・精油抽出作業

\*創作活動→ 羊毛や毛糸、フェルトのマスコット・ストラップ・刺繍・着付け・切り絵・写真(カメラ)  
 ワイヤークラフト・羊毛マスコットとワイヤーのコラボ・フェイクスイーツ・スクイーズ  
 紙粘土の型抜きによるマグネット・コルクボード・フォトスタンド・ポストカード

※各作品の完成度の更なる向上と充実感・達成感を実感できるようになりました。

○平成31年度(令和1)主な活動内容

月	活 動 内 容	ドライブ・観光・レク	備考
4月	畑起こし・創作活動 買い物支援		道の駅納品
5月	畑の苗の管理及び植込み・創作活動 買い物支援	東藻琴芝桜見学	〃
6月	花壇花植え込み・創作活動・中標津東部販売 買い物支援		〃
7月	雑草除去等畑作業・創作活動・のんき店舗販売・買い物支援		〃
8月	本部横除草作業・創作活動・クレパスフェスタ参加 買い物支援		〃
9月	畑野菜収穫・ふれあい祭り・町民文化祭参加作品制作 買い物支援		〃
10月	球根植え・創作活動・精油抽出作業スタート	町民文化祭作品見学・紅葉見学	〃
〃	町民文化祭参加・買い物支援		〃
11月	創作活動・精油作業 買い物支援		〃
12月	創作活動・精油作業 買い物支援		〃
1月	創作活動・精油作業		〃
〃	福祉のつどい販売 買い物支援		〃
2月	創作活動・買い物支援・福祉のつどい参加作品 買い物	白鳥見学	〃
3月	創作活動・精油作業 買い物支援		〃

# 令和1年度 就労継続支援事業所B型 事業報告

すまいる B

## 1. 運営概況

すまいる B では利用者が幸福感をもって自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、就労支援、生活支援、健康管理、生きがいつくり、相談支援の取り組みを行った。新規利用者3名、退所者2名。前年度利用者数と比較すると1名平均増加している。利用者の傾向として、重度の障害、強い行動障害を持つ方、常時精神状態が不安定な方もおり、「就労訓練」というよりは「生活訓練」のため、個別対応に常時1~2名の職員が必要な状況も多かった。利用者間のトラブルや悩み事の相談が多く、話し合いをこまめに行い、ストレスや悩みを抱えないような対応を心掛けた。生産事業や便利屋事業では身体的な疾患や、手先の巧緻動作が苦手な方が多いため、軽作業に従事する方がほとんどである。利用者からは、「いろいろあるけど、勉強になる。皆に良くしてもらって嬉しい。」「すまいる B に来ている時が楽しい」等、いつもどこからともなく笑い声が聞こえている。数値では表せない、そんな幸福感や、生きがいをもって就労できる場づくりを今後も継続していく。

## 2. 事業所名および所在地

- (1) 事業所名：就労継続支援事業所（B型）すまいる B
- (2) 所在地：〒088-3202 北海道川上郡弟子屈町鈴蘭6丁目1番5号
- (3) 電話：015-486-7280（f a x 同左）

## 3. 施設の規模・構造・建築年月日

区分	建物構造等
構造	木造亜鉛メッキ鋼板葺2階建
階数	2階
床面積	134.47 m <sup>2</sup>
延べ面積	205.24 m <sup>2</sup>
建築年月日	平成2年12月

## 4. 従業者の人数

職 種	員数	常 勤		非常勤		常勤 換算
		専従	兼務	専従	兼務	
管理者	1		1			0.5
サービス管理責任者	1	1				1

生活支援員	2	2	2			1.5
職業指導員	1	1				2

### 5. 利用者の状況

利用定員 20名

利用者数（令和2年3月末日） 現員 18名（男性:11名 女性:7名）

年間月平均利用者数 18名

施設の利用状況 (単位:人)													
区分	令和 1 年									令和 2 年			年度計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
開所日数	22	21	20	22	18	20	22	20	20	16	17	18	236
実人数	19	19	20	19	19	19	19	18	18	17	17	18	222
延べ人数	276	280	276	287	227	229	249	225	230	223	206	226	2934
1日平均利用者数	15	15	14	15	12	12	13	13	13	13	12	13	13
前年度実績	12	12	13	13	12	14	13	12	13	12	13	12	14
利用率 (%) (1日平均/実人数)	76%	78%	69%	80%	63%	63%	69%	69%	71%	77%	71%	70%	71%
前年度実績	70%	70%	75%	76%	71%	73%	71%	68%	71%	71%	77%	71%	72%

※小数点第2位四捨五入

平均年齢 男性:52歳 女性:45歳 (令和2年3月31日現在)

新規利用者 3名 (男性:3名)

退所者 2名 (男性:1名 女性:1名)

### 6. 障害の種別

身体障害	1級 2名 4級 2名 その他 6名 (※1)
知的障害	A 4名、B 4名
精神障害	1級 2名、2級 3名、3級 1名
その他	1名
うち重複障がい	13名 (76%)

1級が最上位の等級になり一番重い障害で、数字が増えるごとに障害の程度は軽度になる。知的障害（療育手帳）では重度の場合は「A」、その他の場合は「B」。

※ その他とは、障害手帳は持っていないが、疾患があり就労活動に制限がある者。

### 7. 工賃・工賃実績

時給 100円 月末現金支給

工賃実績 1,328,700円 月平均利用者工賃 5,981円

前年度実績 1,347,500円 月平均利用者工賃 5,910円

## 8. 生産活動

### <作業支援目標>

生産活動にあたっては、利用者の障害特性、利用者の個性、体調、能力、希望に配慮し、精神的、身体的に過重な負担とならないよう配慮を行い、楽しく、精神的にも身体的にも安定して作業に取り組むことができる様、安全の見守り、意欲の引き出し、助言、相談等に支援を行っている。

作業種目	作業内容	従事利用者数 (人)
牛乳パック再利用製品づくり	牛乳パックを再利用して紙すきの工程を経て再生紙や再生紙を使った封筒などの製品製造、販売	12
手芸製品製造	小物類（ペットボトルカバー、シュシュなど）の手芸製品の製造、販売	2
ペットのおやつ作り	犬猫のクラッカーの製造、販売	2
便利屋	グループホームの掃除、犬の散歩、猫の餌やり、お墓の掃除など	1～2
畑作業	花、野菜製造、販売	1～2
仕入れ販売	弟子屈ラーメンの仕入れ、納品、販売	1

## 9. レクリエーション活動

日頃の疲れを癒し、心身のリフレッシュを行うことで、心身機能の活性化を図り、就労への意欲の向上や、生活の中に生きがいを見つけることを目的としたレクリエーション活動を行っている。

### <活動内容>

- ・カラオケ、ダンス、かるた、DVD鑑賞、図書館等（毎週金曜日の午後）  
コミュニケーションが苦手な方でも他者との交流を図ることができ、気晴らしや楽しみを見つける。
- ・ドライブ（冬期を除く 2～3 か月に 1 回程度）
- ・音楽会等鑑賞会

## 10. 健康の維持・増進活動

弟子屈町保健福祉課健康推進係、ボランティア団体、社会福祉協議会のご協力をいただき、心身の健康の維持・増進活動の取り組みとして健康推進行事を実施している。利用者の皆さんからも「もっとやってほしい。」との意見が出され、大変好評である。

また、怪我の予防や、体力づくり、成人病予防等のため、朝の朝礼後や午後の時に、ラジオ体操・健康体操・ダンスなど行っている。

## 健康推進行事

実施日	9月20日	11月16日	2月21日	3月（新型コロナウイルス感染予防のため中止）
場所	すまいる B	すまいる B	すまいる B	すまいる B
内容	がんばるーん体操	生活習慣予防講演会	メンタルヘルス講演会	脳トレ摩周
協力機関	社会福祉協議会 バルーンが摩周 ボランティア山口 様、金子様	弟子屈町役場保健 福祉係 前川保健師、長崎 保健師	弟子屈町役場保 健福祉係 池田保健師、渡 邊保健師	社会福祉協議 会
参加人数	16名	16名	16名	

### 1 1. ミーティング

毎週金曜日にミーティングを行い、料理のメニューを決める他、SSTの取り組みの一つとして、すぐろくを使って皆に質問に答えてもらい、日頃自分から話ができない人でも自己表現できる場となっている。お互いに親睦を図り、悩みなどを共有し、共感、励ましなどによって、自己や他者の良さの気づきや、課題について考えるなど課題解決につながる機会となっている。

### 1 2. 健康管理

- ・ 検温、血圧測定、受診状況、顔色、表情、精神状態、体調面、睡眠時間の確認のほか健康状態の確認を行っている。
- ・ 年1回（11月）に弟子屈クリニックにて健康診断を実施している。

### 1 3. 個別支援計画等の作成

個別支援計画のモニタリング・評価・アセスメントを半年毎（4月・10月ごろ）、または状況の変化に応じて、利用者との面接、個別支援計画検討会議、関係機関との連携を行い、個別支援計画の作成・個別支援内容の説明・文書の交付を実施している。

### 1 4. 非常災害対策

#### ①消防避難訓練（自然災害を想定）の実施（2回）

7月12日（18名参加）、10月16日（14名参加）

#### ②消防立入検査・結果報告

12月10日立ち入り検査にて、じゅうたんの防災ラベル貼り付けがないとの指摘事項があり、2月19日にすべてのじゅうたんに防災ラベルの貼り付け、消防署に報告書

を提出している。

④法定設備点検

消防用設備点検実施。異常なし。

⑤防災計画研修の実施

令和2年2月4日 防災計画の見直し、備蓄品の消費期限の確認を行う。

15. 職員研修

今年度は虐待防止、成年後見制度、防災教育、サービス管理責任者基礎・更新研修を実施。

(1) 施設内研修

- ・ 虐待防止研修 令和1年10月4日 職員全員参加
- ・ 防災研修 令和2年2月4日 職員全員参加
- ・ 成年後見・日常生活自立支援事業研修 3月13日 職員全員参加

(2) 法人内研修

- ・ 虐待防止研修 令和1年10月14日 職員全員参加

(3) 施設外研修

- ・ 令和2年2月5日 弟子屈町主催虐待児童待防止研修 1名参加
- ・ 令和2年12月13日 サービス管理責任者更新研修（北見） 1名
- ・ 令和2年1月21・22日 サービス管理責任者基礎研修（北見） 1名

※ 令和2年3月に予定していた防犯講習会は新型コロナウイルス感染予防対策のため中止。

16. 主な年間行事

R1	
5月	東藻琴芝桜見学
7月	健康推進行事
8月	焼肉・中標津ドライブ
9月	健康診断、健康推進行事
10月	避難訓練・お食事会
11月	健康推進行事（生活習慣予防）
12月	避難訓練、忘年会・お楽しみ会
R2	
1月	新年会
2月	豆まき・健康推進行事（メンタルヘルス）
3月	脳トレ摩周（新型コロナウイルス感染予防対策のため中止）

17. 日課

10 : 00～10 : 30	来所、健康状態の確認、朝礼
10 : 30～10 : 35	ラジオ体操
10 : 35～11 : 00	作業
11 : 00～11 : 15	休憩・水分補給
11 : 15～11 : 45	作業（昼食の買い物 11:30～）
11 : 45～12 : 00	片づけ・昼食準備
12 : 00～13 : 00	昼食・服薬・休憩
13 : 00～13 : 30	体操・ダンスなど
13 : 30～14 : 00	作業
14 : 00～14 : 15	休憩
14 : 15～15 : 00	作業
15 : 00～15 : 30	掃除・休憩
15 : 30～16 : 00	送迎・帰宅

## 平成31年度 てつなぎ工房 事業報告

平成31年度は前施設長が退職され、引継ぎもそこそこ、一日一日をなんとか乗り切ったというのが正直なところでは、

まずは、現状回復を前期目標に行い、中間では少しダレましたが、後半は各部署、職員、全利用者の努力のおかげで例年に近い形をなんとか作れたと思います。

正直、てつなぎ工房として計画も目標も設定出来ないでございました。

しかし事業運営に関しては、

「とにかく利用者様の意見を取り入れる事。なるべく職員の意見も取り入れる事。」を個人目標にして取り組み、出来なかった事、やり過ぎた事もありましたが、何よりてつなぎ工房を選んで、皆様来てくれた事が稼働率として結果に繋がっていると思います。

### 課題

- ・ 運営指標をきちんと示す事。
- ・ 現状回復が完全ではない事。
- ・ 整備しなければならない「資料」や「システム構成」
- ・ 「課」ごとの課題に対してのバランス調整。
- ・ 訴えを取りこぼしている利用者様がいる事。
- ・ 職員の業務バランスについて。
- ・ 職員の世代交代。
- ・ 課の具体的な内容見直し。
- ・ 余暇支援の拡充。

### 目標

- ・ 定員25名の安定化と全体利用率の低下阻止。
- ・ 便利屋を軸としたマルチタスクな運営。
- ・ 地域での選択率の向上と定着化。
- ・ 若年層利用者の一般就労。
- ・ 職員の若返り。

## 平成31年度 便利屋 事業報告

利用者 … 7名 担当職員1名 補助・応援1名

### 今年度を振り返って

- 2t車は年式が古くなり走行距離もそれなりに多くなっていき、車検時に足回りの整備を行い月の半分を取られてしまうが、**一般ごみ処分に力を入れ、大口の作業が多く売上増加に繋がった。**  
また、固定顧客も**例年通りの維持をさせて頂けた。**

- マテック（新聞買取業者）の取引の単価が2.5円下がり1回で2～3000円の収入減になったが、雑誌など重い古紙に手間をかけて重量を稼ぎ、売りに運ぶ回数を増やす事で影響を最小限に留めている。  
(1ヶ月平均8000円減少する所を抑えています。)

**以上の様な働きで結果事業収入は増加傾向に転じました。**

#### ■トラックのメンテナンス、軽トラックの廃車と購入

- ・2tトラックが足回りの整備と今回冬場にスパイクタイヤを装着した。  
→**走行時の職員ストレス減少につながり効率が上がった。**
- ・軽トラックが車検時に整備箇所がみつきり、相当かかる事が解り程度の良い中古を購入。

#### ■利用者同士のコミュニケーションがうまくとれている事。

「**適材適所**」を**目指した取り組み**を行う事で利用者同士の理解が深まり「**馬鹿にする**」「**下に見る**」が**減り**皆がコミュニケーション向上に繋がった。

#### ■施設長からの評価

前年より担当する職員が一人の中、**各事業所から応援をお借りして**取り組んでおり、**大変助かりました。**とはいえ、担当職員が一人減少した中で前年より**売上げを上げた事、便利屋をまとめている事**は大きな評価になると思います。

---

#### 目標と課題

- 目標は事業収入1.5倍 利用者工賃アップ

- 課題は新規顧客の回転率をどれほど良くしていくか。

## 平成31年度 椎茸課 事業報告

利用者 … 7名 担当職員1名 補助2名

### 今年度を振り返って

#### ○人員変更と中身の見直し

担当者が変わり、前年より売上が減少する予想でありましたが、通年の状態を回復する事が出来ました。

分析していくと…

#### ■担当職員の現場・状態把握と椎茸発生スケジュール管理の徹底

#### ■通年のやり方を一部変更。

年々変わる気候変動に備えての作業内容変更。

商品の品質幅を見直し、高単価なものを効率よく出荷に集中できた事。

などがあります。

事業収入も中間期では減少傾向にありましたが、10月以降の追い上げがかなり大きく、前年度とほぼ変わらない事業収入となっております。

#### ■施設長からの評価

前年のデータから今年度は事業収入が落ち込むと予想しておりましたが、

**利用者さんの手間暇をかけた取り組みと、担当職員の努力・知恵・洞察力で**

V字回復が出来たことは大きく評価できると思います。

---

### 目標と課題

#### 劣化するハウス

担当職員の機転でかなり熱効率の良い状態を保つ事が出来ているが、冬を迎える度に劣化が増す。

#### 職員の交代

担当職員の定年を迎え、交代が必要になってきている事…

#### 目標としては

品評会の上位入賞奪還。

椎茸事業の継続と売上継続。

## 平成31年度 内職 事業報告

利用者 … 6名 担当職員1名 補助・応援1名

### 今年度を振り返って

#### ○在庫商品の販売

前年度より手芸完成品の在庫が大量にあり、イベント販売会の子供向けターゲットを絞り「つかみ取り」にして販売する事で大幅に消費出来ている。

#### ○課題と壁

利用者さんのこだわりなどでビーズ以外の作業移行が難しい部分と職員が就労ではなく介護の必要な方への時間を割くことが多く、本来の個別支援を行い「出来る事を伸ばす・広げる」というところまでは出来ていない現状である。

「内職」に所属している利用者さんであっても、高齢などの理由で本来の「作業を目的にする事」が難しくなっている方がおり、本人は作業というより「日常の動作」としてビーズ作業に向かっているがため息が多く楽しんでいない様子はない。余暇活動にあたる様な「ドライブ」などを希望することが多いが職員不足により希望に添えない場合が多い。

工房内の「部署」として内職とされているが、利用者さんの特性を考慮しても利益につながるまでの商品を完成させることは以上の理由からしても職員数が変わらない限り難しい。

#### ■施設長からの評価

前年度からの引継ぎをほぼ新規で行っていく苦勞のなかで今の形を作った事。  
**今まで見えなかった利用者さんの「姿」をきちんと見て、改善を提案する事。**  
毎回ありがたく思っております。  
課題は基盤となる事と同時に壁にぶつかる事でもありますので  
**支援の在り方**をも一度考えて取り組みをしていきます。

## 平成31年度 販売 事業報告

利用者 … 2名      担当職員1名

### 今年度を振り返って

#### ○地方移動の見直し

網走、小清水の移動販売も行っていましたが、時間に対しての非効率が目立ち  
11月で終了させ、町内、標茶、川湯の販売に切り替える。

#### ○販売継続の難しさ

「パンありき」の販売となる。パンで左右される事が多く、その補填商品  
として、担当職員の「つて」で取引していた商品もあったが思った様な  
売れ行きが見込めなかった。また、在庫を余し利益率が非常に悪いセールを  
長期で行う状態が続いた。

#### ○休止

パン事業の中止、コロナウイルスの影響、職員不足、効率の悪循環  
様々な理由で、3月をもって販売課は休止となる。

#### ■施設長からの評価

担当職員の熱意で行っていた所は評価したい。熱意の掛け違いがあり  
早期に対処できなかった事は、利用者さん、職員に申し訳なく思います。

---

## 平成31年度 販売 事業報告

利用者 … 1名      担当職員1名

#### ○一貫した作業

ほぼ全行程を利用者さんが行うといった完全作業に近い環境を作った。  
こだわりをあまり阻害しない方向で進めた事が継続に繋がっていると思う。

#### ○根強いリピーター

リピーターが多い。タイミングが良い在庫と販売時期でバランスが良い。

#### ■施設長からの評価

ほとんどの工程を利用者さん「任せ」になってしまっており、悪くはないが  
半面、作業支援より補助、相談といった理想形になりつつあります。

てつなぎ工房 利用率表

便 利 屋				
月	合計日数	稼働日	平均人数/人	稼働率 (7名所属)
4月	137	20	6.85	98%
5月	121	21	5.76	82%
6月	122	22	5.55	79%
7月	121	23	5.26	75%
8月	101	19	5.32	76%
9月	127	20	6.35	91%
10月	126	23	5.48	78%
11月	119	22	5.41	77%
12月	129	21	6.14	88%
1月	110	18	6.11	87%
2月	120	19	6.32	90%
3月	127	20	6.35	91%

平均稼働率 **84%**

土日祝祭日の休み。平日はほぼフル稼働となる。

椎 茸 課				
月	合計日数	稼働日	平均人数/人	稼働率 (7名所属)
4月	159	20	7.95	99%
5月	183	23	7.96	99%
6月	163	23	7.09	89%
7月	148	23	6.43	80%
8月	146	23	6.35	91%
9月	141	22	6.41	92%
10月	160	23	6.96	99%
11月	154	22	7.00	100%
12月	157	23	6.83	98%
1月	161	23	7.00	100%
2月	147	21	7.00	100%
3月	157	23	6.83	98%

平均稼働率 **95%**

365日椎茸作業がある為、ほとんどが稼働日となる。

販 売 課				
月	合計日数	稼働日	平均人数/人	稼働率 (2名所属)
4月	40	20	2.00	100%
5月	46	23	2.00	100%
6月	41	21	1.95	98%
7月	34	22	1.55	77%
8月	28	19	1.47	74%
9月	39	20	1.95	98%
10月	43	23	1.87	93%
11月	26	22	1.18	59%
12月	20	21	0.95	48%
1月	31	18	1.72	86%
2月	30	19	1.58	79%
3月	13	20	0.65	33%

平均稼働率 **79%**

土日祝祭日は基本休みだが販売会もある。

7月に利用者様忌引きで1か月ほど休み、

12月はもう一人入院手術の為2か月ほど休み。

工房 全体 稼働率				
月	合計日数	平均稼働日	平均人数/人	稼働率 (25名所属)
4月	449	20	22.45	90%
5月	474	23	20.97	91%
6月	443	22	20.51	85%
7月	418	22	18.66	78%
8月	368	20	18.59	77%
9月	397	20	19.46	81%
10月	453	23	19.70	82%
11月	415	22	18.86	79%
12月	422	21	19.72	82%
1月	400	19	21.05	88%
2月	395	19	20.36	85%
3月	396	21	19.22	80%

平均稼働率 **83%**

所属利用者は25名ですが、退所や新規で変動あり。

内 職				
月	合計日数	稼働日	平均人数/人	稼働率 (6名所属)
4月	93	20	4.65	<b>78%</b>
5月	105	23	4.57	<b>76%</b>
6月	97	21	4.62	<b>77%</b>
7月	105	22	4.77	<b>80%</b>
8月	93	19	4.89	<b>82%</b>
9月	82	20	4.10	<b>68%</b>
10月	103	23	4.48	<b>75%</b>
11月	96	22	4.36	<b>73%</b>
12月	95	21	4.52	<b>75%</b>
1月	80	18	4.44	<b>74%</b>
2月	80	19	4.21	<b>70%</b>
3月	80	20	4.00	<b>67%</b>

平均稼働率 **74%**

土日祝祭日の休み。他の事業所を併用利用者が3名。

石 け ん				
月	合計日数	稼働日	平均人数/人	稼働率 (1名所属)
4月	20	20	1.00	<b>100%</b>
5月	19	23	0.83	<b>83%</b>
6月	20	21	0.95	<b>95%</b>
7月	10	22	0.45	<b>45%</b>
8月	0	19	0.00	<b>0%</b>
9月	8	20	0.40	<b>40%</b>
10月	21	23	0.91	<b>91%</b>
11月	20	22	0.91	<b>91%</b>
12月	21	21	1.00	<b>100%</b>
1月	18	18	1.00	<b>100%</b>
2月	18	19	0.95	<b>95%</b>
3月	19	20	0.95	<b>95%</b>

平均稼働率 **78%**

土日祝祭日の休み。

個人のアルバイトの為、8月～9月お休みしている。

# GHてつなぎ荘事業 令和元年度事業報告書

令和2年5月1日 作成者 田中周太

## 1: 運営状況

\* 給付対象事業  
指定共同生活援助事業  
てつなぎ荘 定員7名 満室 (令和2年3月末日)  
  
てつなぎ抱夢 定員5名 満室(令和2年3月末日)  
  
ほんわかホーム 定員6名 満室(令和2年3月末日)  
  
泉ほ一む 定員2名 1室空室(令和2年3月末日)  
  
全4施設定員20名 19名利用(令和2年3月現在)  
  
指定短期入所事業(てつなぎ荘にて実施) 定員1名  
稼働率 70%

\* 給付対象外事業  
:生活困窮者一時預かり事業 (定員1名 随時対応)  
事前予約にて随時対応  
:生活困窮者(有料ショートステイ)事業  
支給決定外の方を対象に運営  
事前予約にて随時対応  
利用料:1日2000円+3食900円

## 2: サービス体制

\* 住居毎の職員配置数及び業務内容  
  
てつなぎ荘 世話人(ほんわか兼務) 宿直応援職員数名(他事業所職員 4名  
:宿直(夜間18時~翌9時)・日勤(祝祭日などの休日時の支援全般)  
  
泉ほ一む 世話人兼務 1名(てつなぎ荘配置職員により管理)  
:巡回時間 8時、13時(休日のみ)、18時、22時  
  
てつなぎ抱夢 世話人兼務 1名  
:荘宿直者が対応、18時、22時、8時に巡回を行う(休日のみ13時)  
  
ほんわかホーム 世話人 1名 生活支援員 5名(5交代勤務)  
:日勤(8時45分~17時30分、生活支援全般)  
:早出(6時45分~15時30分、生活支援、受診対応など)  
:遅出(13時~21時、生活支援全般)  
:夜勤(15時15分~9時、夜間支援全般)  
  
\* 食事提供体制 (平日の夕食)・土日=宿日直対応職員が担う。  
調理員 2名 交代制にて対応・不在時は当日担当職員にて対応

## 3: 共通業務

:個別支援計画策定  
:生活支援全般(相談対応、助言、残存機能活用援助など)  
:施設維持管理  
:各種申請(各種手続き代行)  
:記録整備管理事務全般  
:館内清掃(共有部及び建物外周)  
:朝食提供及び土日の朝昼夕食提供  
:休日の対応  
:利用者の余暇支援(外出行事など)  
:利用者の受診・買物支援  
:各町内会の行事に参加

#### 4.問題点と今後の課題

##### \* 職員の早急な補充

長年、グループホームの管理者を行っていた前施設長の辞職の穴はとて大きく、グループホーム全体の運営の見直しをしなければならない状況にあります。

特にてつなぎ荘の宿直業務は、GH職員だけでは回らなく、他事業所に応援を依頼している状態です。同時期にほんわかでも女性職員2名の傷病による長期休暇が重なり、グループホーム職員の不足を身をもって感じる期間でした。令和2年2月～職員1名が復帰したのですが、職員不足の状態は変わっていません。早急な職員確保が必要と考えています。

前施設長の辞職によって最初は利用者も混乱していたのですが、徐々に落ち着き始めています。しかし、まだ少し混乱している方もいるので、今後もケアが必要かと考えています。

##### \* 全グループホームの家賃改定

以前より課題になっていた利用料の改正は、令和2年4月～全施設での値上げを目途に他グループホームの利用料を参考にしつつ、利用者には負担がない金額の値上げを検討した結果、令和2年4月分より以下の料金で改定をする事にしました。

現在の家賃体系							
	家賃	食費	水道光熱費	合計	家賃補助	実質負担額	
てつなぎ荘	12,000円	1食300円	13,000円	25,000円 + 食費	10,000円	15,000円 + 食費	
ほんわかホーム	22,000円	1食300円	13,000円	35,000円 + 食費	10,000円	25,000円 + 食費	
てつなぎ抱夢	22,000円	1食300円	実費負担	22,000円 + 食費	10,000円	12,000円 + 食費	
泉ほ一む	22,000円	1食300円	実費負担	22,000円 + 食費	10,000円	12,000円 + 食費	



改定後の家賃体系							
	家賃	食費	水道光熱費	共用費	合計	家賃補助	実質負担額
てつなぎ荘	18,000円 (+6,000)	1食300円	13,000円	1,000円	32,000円 + 食費	10,000円	22,000円 + 食費
ほんわかホーム	25,000円 (+3,000)	1食300円	13,000円	1,000円	39,000円 + 食費	10,000円	29,000円 + 食費
てつなぎ抱夢	25,000円 (+3,000)	1食300円	実費負担	1,000円	26,000円 + 食費	10,000円	16,000円 + 食費
泉ほ一む	25,000円 (+3,000)	1食300円	実費負担	1,000円	26,000円 + 食費	10,000円	16,000円 + 食費

結果として、てつなぎ荘が7000円、その他3施設が4000円の値上がりとなりました。

てつなぎ荘については、築年数が古く、補修箇所が増えてきている為、他3施設より値上げ額が多くなっています。

3/16に各利用者に向けて説明会を行いました。一部の利用者様から金銭面での不安等も聞かれていますので、相談支援事業所等と連携しながら、対応をしていきます。

##### \* 新型コロナウイルスに係る影響について

日本全国で感染が拡大中の新型コロナウイルスは、弟子屈町近郊でも確認される等、身近に迫ってきています。

てつなぎ荘として、入居者の生命を守るために、不要な面会や外泊のお断りをしています。

ショートステイ事業に関しては、施設長会議等で協議の上、当面の間の受け入れ停止対応をしています。

ショートステイを利用している利用者様のご家族にも連絡を取り、ご理解を頂いています。

令和2年5月現在、ショートステイ事業の再開の目途はたっていない状況です。

# 令和元年度 就労継続支援B型事業所 めくもり弁当 事業報告

## 1.目的

法人の理念、各種法令を遵守した上で当事者の社会参加・自立を支援する。  
個々の能力や尊厳、個性を尊重した支援を行う。

## 2.方針

法人の理念に基づき、本人の能力に応じた支援を行う。  
「ともにいきる」という法人の理念を全職員が周知・理解し、利用者個々の障がい特性を把握しながら支援にあたることができた。

## 3.事業内容

### 1) 弁当製造販売<町内、南弟子屈、磯分内、標茶、町外他2時間圏内>

販売実績については以下の通りである。ほぼ前年度並みの成果であった。

※令和元年度 実績

(個)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
個数	1,459	1,399	1,804	1,798	1,369	1,667	1,321	1,189	1,076	928	1,599	1,783	17,392

(参考) 平成30年度実績 16,668

### 2) パン製造販売<網走、弟子屈>

パンの製造販売に関して、製造過程における経費が必要以上にかかり、収支が合わず2月末で事業を中止した。

※令和元年度 実績

(個)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
個数	1,707	1,431	1,883	1,526	1,274	1,507	1,458	1,729	1,246	1,018	1,450	—	16,229

(参考) 平成30年度実績 27,916

### 3) 委託業務事業<川湯の森病院清掃>

川湯の森病院の清掃作業は、特に問題等なく実施することができた。

### 4) イベント販売<道の駅、農協、観光祭り等の町内外の各種行事への出店>

道の駅のお弁当販売(GW)、福祉センター(6月)、摩周観光まつり(7月)、サマージャック(8月)、ふれあいまつり(9月)、磯分内農業祭(9月)、商業まつり(10月)等のイベントに参加し販売を行った。

### 5) 当事者支援に関する業務全般<更新手続き、個別支援計画の作成他>

利用者に対して、不利益が生じないよう遅滞なく支援を行うことができた。

### 6) 年2回の避難防災訓練の実施

今年度の避難防災訓練は、パン工場は予定通り2回実施できたが、めくもり弁当の本体は、実施時期が新型コロナウイルス感染拡大時期と重なり、1回のみの実施となった。

#### 7) 消防設備点検の実施

令和元年12月10日実施。指摘事項なし。

#### 8) 燻製の製造販売

今年度は実施していない。

### 4. 営業日、及び営業時間

営業日は、原則、週5日(月曜日から金曜日)行なう。但し、祝祭日、お盆、年末年始は、非営業日とし、お休みとした。また、イベント販売実施により、祝祭日を営業日として数回実施。

※令和元年度 開所日数 実績

(日)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日数	20	22	21	23	19	19	22	20	21	18	18	20	243

(参考) 平成30年度実績 245

### 5. 利用定員

20名

※令和元年度 利用者実人数 実績

(人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	15	18	18	16	16	14	16	15	15	12	13	13	25

(参考) 平成30年度実績 15

※令和元年度 利用者延べ人数 実績

(人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	256	281	287	303	218	197	239	227	231	159	164	172	2,734

(参考) 平成30年度実績 2,241

### 6. 従業者の人数(令和2年3月31日現在)

・管理者 1名    ・サービス管理責任者 1名    ・生活支援員 2名    ・職業指導員 1名  
合計 5名

(参考) 平成30年度実績 9名

### 7. 支援内容

#### (1) 心配事や悩み等を話しやすい、聞きやすい環境の整備

利用者の表情、態度、言動等からいつもと違う様子に気づいた時は、速やかに声掛けをして可能な限り傾聴し、話しやすい雰囲気を作るよう努めた。

#### (2) 作業への意欲を高める支援を行なう

作業を協業することで達成感を共有し、予定を示すことで先の内容(目標)が見える支援に努めた。

#### (3) みんなが協力しながら作業に取り組めるような雰囲気、環境の整備

一人ひとりの主体性を尊重しながら、協業の中で利用者が安心して取り組める雰囲気づくり、安全な環境づくりに努めた。

**(4)一人ひとりの障害特性、疾病を理解した上で尊重する**

障害や疾病から出来る部分と出来ない部分を理解しながら、得意な部分は伸ばし、苦手な部分は工夫しながら出来るよう“弱みを強みに代える”支援に努めた。

**(5)互いに協力し合えるように支援する**

作業工程の中で、利用者同士ペアを組み行なうことで、連帯意識やお互い協力することの大切さを身に着ける支援に努めた。

**8.個別支援計画の作成**

- ・利用者個人の要望や気持ちを尊重した本人中心の計画を策定する
- ・作成した計画は、本人や家族に説明し、同意確認を行なう
- ・作成した計画に基づき支援を行ない、定期的に本人と面談を行なって評価する  
アセスメント、モニタリングを行い、個別支援計画の作成、及び評価を行った。

## 令和1年度法人の現況及び収支について

### 1 法人の現況

平成29年度より事業運営の構造的な改善を図り、収支についても安定的な運営に於いて利用者さんの工賃の向上を目指してまいりました。然しながらA型事業所を廃止してB型事業所へ転換した影響は大きく、30年度は利用者さんが動揺して一般就労及び他の事業所へ転籍する動きがありました。令和1年度も利用者さんの減少が留まらず給付金収入も大きく減少する結果となり、現状収支は厳しい状況であり、その改善が2年度の大きな課題であります。

また、ベテラン職員の退職で利用者が動揺する場面もありましたが、残った職員の努力で落ち着きつつあります。魅力ある事業所として、利用者さんから選んで頂ける存在となるべく職員教育を充実させ安心して過ごせる場所となることが大切と思います。幸い5年以上の職員が増えてきており、利用者さんとの接し方が徐々に向上しております。

「ともに生きる」が法人の理念です。1.利用者さん及びその家族とともに2.スタッフ及びその家族とともに3.社会とともに4.自然とともに、以上4つの「ともに生きる」という意味が込められています。その理念に基づき、「障がい者ひとりひとりの人生を豊かにする支援」と「誰もが住みやすい地域社会の環境作り」に貢献して行きます。

### 2 収支詳細について

#### ・就労支援事業収支

事業収入（就労支援事業収入）は、全体で対前年比3,749,349円減の32,023,856円となりました。減少の大きな要因は、委託先の都合でレストラン事業が廃止となったこと（3,951,380円減）及びケラピリカの事業所廃止に伴いパンの販売が大幅に減少した（2,149,626円減）ことであります。反面、便利屋事業において川湯の森病院の清掃代を順次改善して頂いたことが寄与して、全体的に前年比1,600,000円の大幅な増加となりました。また、ぬくもり弁当は建築等工事現場からまとまった注文を受け前年比1,113,220円の増加となりました。結果的に事業収入は大きく減少致しましたが、収支は前年より1,441,231円の改善となっており事業の在り方を見直すきっかけとなりました。

#### ・収入の部

障害福祉サービス等事業収入が対前年7,076,908円減となりました。大きな要因といたしましては、ぬくもり弁当の利用者減に伴い給付金収入が前年比6,447,475円減となったことあります。（統合したケラピリカも加味）

・経費の部

人件費について、処遇改善により役員報酬及び職員給与で1,776,861円増、一時的な職員増に伴う社会保険料増で実質前年比404,605円増となりました。(社会保険料は表面的には前年比2,236,652円増となっておりますが、前年度の平成31年3月31日が休日であり、その分1,732,047円が本年度に繰越となっております)

事業費は車両費支出が前年比1,469,935円減(前年トラックの大規模な修繕、車検が多かった)、車両燃料費支出が前年比602,960円減(石油価格値下り)、旅費交通費支出が前年比246,409円減(前年サビ管講習・研修が多かった)、修繕費支出は前年比332,436円減等が寄与して、全体では2,371,384円の大幅な削減となりました。

事務費では賃借料支出(527,511円増)が目立っておりますが、ハイエース導入にあたりリースで組み立てたものであります。

・借入及び設備について

資金繰り安定化を図るため6月に釧路信金より15,000,000円の融資を受けました。

(既存融資残3,400,000円返済、真水(実際に使える金額)は11,600,000円)

上記資金をもって分割支払をしていた土地代の未払い分2,060,000円を一括支払い、車両購入費1,740,000円及び備品購入費437,660円に当てました。残りは運転資金として活用致しました。

・収支について

上記の通り、障害福祉サービス等事業収入が大きく減少したこと、また、人件費が増えたことにより事業活動資金収支差は対前年▲8,577,937円(上記社会保険料を考慮すると実質▲6,845,890円)の大幅な減収となり、危機的状況とも言えます。

3 今後に向けて

以上の報告のように令和1年度はあらゆる面で大変厳しい年度となりました。然しながら、就労支援事業収入が3,749,349円減となりましたが、収支は便利屋事業が貢献して前年比1,441,231円改善されました。事業運営の在り方を見直す時期に来ているのかと思案しておりますが、利用者さんが安心して過ごせる場所にするべきという福祉的側面も重視しながら、どう運営していくかが大きな課題と思われれます。

各職員から色々なアイデアを出してもらい、加算等による給付金収入の増収策、グループホームの家賃改定、事業見直しによる経費削減等収入の改善に取り組み、少なくとも5,000,000円以上の増収を見込んでおります。